

第1号議案 令和2年度事業報告書・計算書類及びその附属明細書 並びに財産目録の承認について 事業報告書

(第53回)

自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日

1. 事業概要

(1) 青果物を取り巻く環境について

令和2年度は、「みやぎ園芸特産振興戦略プラン」(平成28年度～令和2年度)の最終年度であり、また、東日本大震災から10年が経過して被害を受けた県内の園芸生産基盤は、生産者・県・市町村・JA関係者が一丸となって震災復興計画に取り組み、本県園芸産出額は震災前の水準まで回復した。

生産面では、新型コロナウイルス感染拡大により、生産現場での労働力の確保など農畜産業に大きな影響を受けた。2020年農林業センサスによると、全国の農業経営体の減少が続くなかで、法人化や大規模化が進んでおり、大規模化に伴う農地集積が図られている。また、農業従事者の高齢化・担い手不足などを背景に国内青果物の生産量は、長期的な減少傾向となっている。県内の担い手状況は、個人経営体数28,714経営体、団体経営体数1,291経営体(2015年調査1,259経営体)のうち法人経営体は、688経営体(2015年調査532経営体)で53.3%を占めている。

消費面では、令和2年度スタート時点からコロナ禍で外食産業が低迷し、業務用需要が減少する一方で、家庭内調理用の需要が増加したことにより、生鮮野菜では貯蔵しやすい、たまねぎ・ばれいしょ・にんじんの原体需要が増えた。また、カット野菜・冷凍野菜へ需要がシフトし、カット野菜ではキャベツ、冷凍野菜ではブロッコリー・ほうれんそうの需要が増えた。サラダ・カット野菜はコロナ禍以前から調理の簡便化が求められており増加傾向にあったが、さらに需要が増加した。

流通販売面では、コロナ禍による家庭内需要の増加から量販店販売が好調であった。また、消費者の意識の変化に伴い、量販店、コンビニエンスストアでのセルフレジやキャッシュレスの導入、ネット販売の活用など、非接触、非対面化が進んだ。

物流面では、食料品、日用品を取扱うメーカーは、パレット輸送に切替え、運送業者のドライバー不足やホワイト物流化への対応が進んだ。青果物流通では、運送業界で規格統一されているパレット化の導入に向けた包装資材適正化の動きがみられ、一貫パレチゼーション化により物流機能の効率化が求められている。

(2) 青果物の取扱実績について

令和2年度の全農宮城県本部の園芸品目取扱高合計は、12,986百万円(前年比102.5%)となった。野菜の主力品目のきゅうりで、数量は前年を下回ったものの(前年比96.3%)、価格(前年比112.7%)は安定し、金額は1,871百万円(前年比108.6%)となった。野菜計は数量24,851ト(前年比94.1%)、金額7,366百万円(前年比99.6%)の取扱実績となった。

果実は数量4,204ト(前年比99.3%)、金額4,256百万円(前年比106.8%)、うちイチゴは、数量、価格とも前年を上回り、数量3,332ト(前年比105.5%)、金額3,971百万円(前年比106.3%)

の取扱実績となった。

また、花きは数量 160,856 ㍻（前年比 100.7%）、金額はコロナ禍で業務需要の荷動きが停滞し、価格は前年を下回り、694 百万円（前年比 97.6%）の取扱実績となった。

（3）補給金の交付状況および交付実績について

生産農家の経営安定と再生産の確保等を図るため、卸売市場の販売価格が著しく低迷した品目について「一般青果物価格補償事業」で 13 品目（前年 17 品目）、「特定野菜等供給産地育成価格差補給事業」については 2 品目（前年 1 品目）、「指定野菜価格安定対策事業」は 3 品目（前年 4 品目）を対象に補給金交付を行った。

① 一般青果物価格補償事業 … 表 1

ア. 野菜は、交付額順に「たまねぎ」「こねぎ」「ちんげんさい」「ゆきな」「こまつな」等が交付対象となった。

イ. 果実は、平均販売価格が補償基準価格を上回り交付対象品目はなかった。

ウ. 交付額合計は、20,363,653 円（前年比 87.3%）で、交付予約数量 9,219.4 トン（前年比 93.1%）に対し交付対象数量 980.7 トン（前年比 53.1%）の実績となり「たまねぎ」「こねぎ」「ちんげんさい」の上位 3 品目で交付額の約 57.2%を占めた。

② 特定野菜等供給産地育成価格差補給事業 … 表 2

「しゅんぎく」と「ほうれんそう」で、交付予約数量 107 トンに対し交付対象数量「しゅんぎく」で 8.9 トン、「ほうれんそう」0.3 トンの実績となり、計 78,518 円の交付を行った。

③ 指定野菜価格安定対策事業 … 表 3

交付予約数量 4,681 トンに対し「ほうれんそう」「夏秋トマト」で交付対象数量 45 トン、交付額 461,000 円の交付を行った。なお「夏秋キャベツ」は交付対象となったが、少額のため交付を辞退した。

表 1 一般青果物価格補償事業

対象月	補給金額 (円)		前年比 (%)	対象品目	品目数	交付年月日
	R 元年度	R 2 年度				
4 月	4,305,135	0	0.0		0	R2.6.19
5 月	1,240,184	394,317	31.8	ブロッコリー	1	R2.7.21
6 月	603,508	363,210	60.2	たまねぎ、ブロッコリー、だいこん	3	R2.8.21
7 月	4,613,576	2,972,909	64.4	たまねぎ	1	R2.9.18
8 月	2,021,240	2,759,580	136.5	たまねぎ、ちんげんさい、こまつな	3	R2.10.21
9 月	2,034,562	1,375,316	67.6	ちんげんさい、えのきたけ	2	R2.11.20
10 月	848,976	0	0		0	R2.12.21
11 月	830,912	3,196,571	384.7	ちんげんさい、ゆきな、こまつな、ブロッコリー、キャベツ、だいこん、レタス	7	R3.1.21
12 月	462,410	4,972,023	1,075.2	こねぎ、ちんげんさい、ゆきな、こまつな、ブロッコリー、みずな、トマト、キャベツ、はくさい	9	R3.2.19
1 月	433,298	139,264	32.1	トマト	1	R3.3.19
2 月	2,345,497	217,272	9.3	ゆきな	1	R3.4.21
3 月	3,580,600	3,973,191	111.0	こねぎ、ちんげんさい、ゆきな、こまつな、みずな	5	R3.5.21
合計	23,319,898	20,363,653	87.3		13	—

表2 特定野菜等供給産地育成価格差補給事業

対象品目	対象出荷期間	補給金額 (円)		前年比 (%)	R2年度 交付年月日
		R元年度	R2年度		
ほうれんそう (東北)	R2年 10月 1日～12月 31日	0	5,802	—	R3. 3. 1
ほうれんそう (東北)	R3年 1月 1日～ 3月 31日	0	6,087	—	R3. 5. 20
しゅんぎく (東北)	R3年 1月 1日～ 3月 31日	77,797	28,154	36.2	R3. 5. 20
しゅんぎく (関東)	R3年 1月 1日～ 3月 31日	0	38,475	—	R3. 5. 20
合計		77,797	78,518	100.9	

表3 指定野菜価格安定対策事業

業務区分				補給金交付額		R2年度 交付年月日
対象品目	対象出荷期間	対象市場	産地区分	R元年度	R2年度	
冬春きゅうり	5月～6月	東北	I			
		東北	III			
		関東	I			
春キャベツ	5月～6月	東北	I			
		関東	I			
ほうれんそう	4月～6月	東北	I			
夏秋きゅうり	7月～9月	東北	I			
		関東	I			
夏秋トマト	7月～9月	東北	I	949,000		
夏秋トマト	10月～11月	東北	I	0	107,000	R3. 1. 28
夏秋キャベツ	7月～10月	東北	I	105,000		
		関東	I	36,000	(辞退) 2,000	
夏秋なす	7月～9月	東北	I	0		
夏秋なす	10月～11月	東北	I	137,000		
ほうれんそう	7月～9月	東北	I	0		
秋冬ねぎ	10月～12月	東北	I	0		
秋冬ねぎ	1月～3月	東北	I	798,000		
ほうれんそう	10月～12月	東北	I	0	82,000	R3. 2. 26
ほうれんそう	1月～3月	東北	I	0	272,000	R3. 5. 27
冬春きゅうり	3月～4月	東北	I	0		
事業計			東北	1,989,000	461,000	
			関東	36,000	0	
			計	2,025,000	461,000	